

議長（黒沢義久君） 次，1番木村郁郎君の発言を許します。

〔1番 木村郁郎君登壇〕

1番（木村郁郎君） 1番木村郁郎でございます。議長より発言のお許しをいただきましたので、通告に基づきまして一般質問を始めさせていただきます。

初めに、道路橋、橋梁の安心・安全対策について。市管理橋梁の建設後の管理の現況と、長寿命化に向けての点検、修繕計画について、国の長寿命化修繕計画策定事業費補助制度利用の考え方とあわせてお伺いいたします。

現在、道路として使用されている15メートル以上の橋は、全国でおよそ15万本あり、そのうちの9割、13万4,410本は地方自治体が管理しており、そのうち市区町村は8万2,376本を管理しております。

我が国における道路整備は、高度経済成長期に急速に進んだために、今後、高齢化した橋梁が急増していくことが予想され、修繕、かけかえに係るコストの著しい増加が見込まれることから、国土交通省において、全自治体を対象に管理する橋の点検状況を調査したところ、過去5年間に、市区町村管理の橋は27%に当たる2万1,800本しか点検されていないということがわかりました。

それでは、本市管理の橋梁は、計画的に点検され、適切に予防的修繕が図られているのでしょうか。安全で安心な道路サービスを確保するため、橋梁の定期的な点検により、早期に損傷を発見し、事故やかけかえ、大規模な修繕に至る前に対策を行う予防保全を計画的に実施してほしいという立場から、本市の管理する橋梁の点検管理の現況をお伺いいたします。

また、今年の3月21日付、橋梁長寿命化新聞によりますと、橋梁の長寿命化並びに橋梁の修繕及びかけかえに係る費用の縮減を図るため、国交省が定めた長寿命化修繕計画策定事業について、本市は利用を進めていくとのことですが、計画策定方針及び進捗状況をお知らせください。

次に、自殺対策における行政の役割について。自殺予防対策における本市の方針並びに自死遺族に対する支援活動についてお伺いいたします。

全国的には、昨年1年間に自殺した人は、3万2,294人に上り、1998年以降11年連続で3万人を上回っており、厳しい経済状況が影響し、依然として深刻な状況にあるということは、新聞、テレビなどの報道によりご存じのことと思います。

それでは、茨城県、そして本市においてはどのような状況にあるのか。平成19年の茨城県内では、実数770人、人口10万人当たりの自殺者数これを自殺死亡率と申しますけれども26.3人で、47都道府県中では上から16番目となっております。本市においては、平成18年の数字になりますが、実数で17人、人口10万人当たりの自殺者数は28.8人で、44市町村中では上から17番目になっておりました。

ここで私が1つ気になったのが、本市の男性の10万人当たりの自殺者数の高さでした。実数17人のうち、男性は15人となっております、人口10万人当たり直しますと52.3人となり、県内市町村の中では上から9番目となっていることでした。自殺の動機は、健康問題及び経済、生活問題の2つで過半数を占め、続いて勤務問題、家庭問題となっていることから、行政におい

ても健康，福祉，就労相談など，事前予防対策の充実が求められているところでございます。

交通戦争と呼ばれた1970年に，1万6,765人もいた日本の交通事故死者は，きめ細かな交通安全運動や自動車性能の向上などにより，昨年は5,155人にまで削減されました。自殺対策に関しても10年，20年といった長い時間をかけて，地道な対策を講じていかなければなりません。

そこで，当市の自殺予防対策における方針について，現状と今後の取り組みをお聞かせください。そして，今後長期間にわたって地道な対策がとられ，たとえ自殺者数がゼロになったとしても，自死遺族の方が常陸太田市にいらっしゃることにはかわりありませんので，自殺者の遺族の方への対応，ケアについて当市の考え方をお示してください。

今月は10日の世界自殺予防デー，そして10日から16日までは自殺予防週間となっていることから，今般の一般質問が当市の自殺予防対策を講じる上で1つの契機になればと思い，質問させていただきました。ご答弁をよろしく願いいたします。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 富田広美君登壇〕

建設部長（富田広美君） 橋梁の安心・安全対策についてお答えいたします。

まず，市管理橋梁の管理の状況についてでございます。

市では，延長2メートル以上を橋梁として管理しております。本市に架設されております橋梁は，永久橋及び木橋を合わせまして879橋でございます。内訳といたしましては，太田地区378橋，金砂郷地区250橋，水府地区141橋，里美地区110橋でございます。

このうち幹線道路に架設されている橋梁につきましては，職員のパトロールや地元からの情報提供などにより損傷個所などを把握し，維持管理に努めているところでございます。特に，大雨時などの流されるおそれのある木橋につきましては，パトロールを強化するなどして安全確保に努めております。その他の道路の橋梁につきましては，損傷個所などは，職員のパトロールではなく，地元からの情報提供によりまして，現地調査をしている状況でございます。

次に，長寿命化修繕計画策定事業費補助制度の活用についてでございます。

この制度は，今後老朽化する道路橋の増大に対応するため，損傷が顕在化した段階になって初めて行う橋梁の修繕から，健全度の把握を行い，損傷が顕在化する前の軽微なうちに計画的に行う橋梁修繕へと政策転換し，橋梁の長寿命化を図り，橋梁の修繕及びかけかえの費用を縮減することを目的として，国の補助事業として創設された制度でございます。

市町村につきましては，平成19年度から25年度までに修繕計画を策定する自治体に対しまして，計画策定費用が補助されるものでございます。国では，平成26年度以降は，当該計画に位置づけられた予防的な修繕及びその後の計画的なかけかえのみを補助対象とするものとしております。本市におきまして，この制度を積極的に取り入れ，老朽化した橋梁の安全対策に取り組む考えでございます。

事業導入に当たりましては，橋梁の点検調査により，損傷状況を把握する必要があることから，現在，事業の対象となる延長15メートル以上の橋梁125橋，内訳でございますが，太田地区

34橋，金砂郷地区25橋，水府地区30橋，里美地区36橋でございますが，このうち86橋の点検調査を行っております。平成20年度に先行して2橋の点検調査を行っていることから，残りの37橋につきましても来年度調査を予定しております。

この点検調査終了後，平成23年度に補助事業によりまして修繕計画を作成してまいりたいと考えております。その後，修繕計画の優先順位に基づきまして，計画的に橋梁修繕工事を実施していくこととなります。

議長（黒沢義久君） 保健福祉部長。

〔保健福祉部長 綿引優君登壇〕

保健福祉部長（綿引優君） 自殺対策における行政の役割についてお答えいたします。

1点目の自殺予防対策における本市の方針についてであります。自殺対策につきましては，啓発，教育を目的とした一次予防，自殺に傾いている方に関与する危機介入としての二次予防，自殺が生じた後の残された人たちへのサポートとしての三次予防がございます。

本市の対応でございますが，平成21年1月に，県が国の作成した自殺総合対策大綱に基づき，県内市町村に担当窓口の設置を求め，本市では健康づくり推進課が窓口となり，今年度より対応を初めております。

まず，一次予防ですが，7月9日に市総合福祉会館において，中高年にうつ病に罹患する方やそれに伴う自殺が多いことに着目し，心の健康づくり講演会として「中高年の心のケアについて」と題した講演を開催し，民生委員や一般の方々90名の参加をいただいて実施しております。

次に，二次予防としての対応につきましては，毎月第一金曜日に精神科医師による精神保健相談を実施しており，本年度は，現在までに9件の相談があり，そのうち5件について，うつ病からの自殺危機ケースに対応し，必要に応じて医療機関につないで連携を図っております。

また，市役所が自殺の危機にある方を早期発見，早期予防するためのゲートキーパー機能を持つため，生活に密着する福祉事務所を初めとする関係各課と連携し，例えば，生活苦からの自殺の危機に早く対応する機能も強化していきたいと考えております。

2点目の自死遺族に対する支援活動についてであります。自殺により残された遺族も周りからの偏見や抑うつ感にさいなまれるなど，精神的な苦痛を受けとめるとともに，母と子などが残された場合は，生活苦の問題が自殺から日にちがたつにつれあらわれてきます。県においては，自殺対策シンポジウムなどで，自死遺族の交流会を開催するなど，支援活動が始まっております。本市におきましては，現在実施中の精神保健相談において，自殺の危機にある方の相談以外に，自死遺族に悩みの相談対象である旨を広報紙などによる広報時に明確にPRしていきたいと考えております。

また，自殺の危機にある方の二次予防対策と同じように，関係各課と連携し，生活苦などからの後追い自殺などがないよう精神保健相談等につながる連携体制もさらに整えてまいります。

以上です。

議長（黒沢義久君） 1番木村郁郎君。

〔1番 木村郁郎君登壇〕

1番(木村郁郎君) ご答弁ありがとうございました。橋梁の点検実施状況及び修繕計画策定の現状についてお聞かせいただき、市管理橋梁の安全確保のための長寿命化修繕計画の重要性、必要性について理解いたしました。

私が質問当初より懸念していた予算がないから、職員が少なくて手が回らないから橋の点検、修繕が遅れてしまい、損傷が顕在化してしまっからの機能的な修繕やかけかえになってしまわないように策を講じていただきたいと存じます。

私も市民からの修繕要望など、通報に耳を傾け、すみやかに行政につなぐことにより、橋の安全を守るためお役に立ちたいと思っております。

自殺対策については、当市の現状を把握し、懸念され、今後予防対策に取り組んでいく姿勢を示していただきました。ありがとうございました。自殺対策における市役所の役割として、私は、答弁にもありました自殺予兆者の異変に気づき、支援につなぐゲートキーパーとしての役割が重要になってくると考えております。生活保護についての相談、税金の支払い、子育てや高齢者の病気の相談などからSOSの発信を感じ取ることが大切になると思います。自殺対策の実践的ノウハウを持つNPO法人主催のゲートキーパー研修などを活用して機能強化を図っていただければと思います。

以上で私の一般質問を終わります。